

アスポート学習支援員事業とは

家庭訪問

対象世帯を訪問し、教育相談・進路相談

- 家庭環境を把握
- 勉強や生活習慣の悩みを聞く
- 支援員と子ども・保護者との関係づくり

学習意欲を高めるために、子どもたちを学習教室につなげる。

学習教室

「わかる楽しさ」が実感できる学習環境

- 「学ぶ」ことで広がる世界、
- 子どもの良さを引き出す居場所
- 支援員やボランティアによるマンツーマン指導

子どもたち一人ひとりに合わせた学習支援に取り組む。



特別養護老人ホームをお借りして学習教室



なんでも質問できる学習教室



1
大学生ボランティアが丁寧に個別指導

校門の外で私たちが取り組んでいること

- (1) 生活困窮者自立支援法に基づく生活困窮世帯への生活・学習支援事業
- (2) 埼玉県（23町村）及び25市からの「委託事業」で、費用は全額、国と埼玉県及び各市
- (3) 事業内容
 - ① 学習教室の運営（120教室、小・中・高校生1800名、ほぼ、マンツーマン指導、無料、大学生ボランティア・元教員・社会人1000名ほど）
 - ② 家庭訪問（1800世帯）
 - ③ 学習教室での食事提供、体験、イベント（23教室、子ども食堂の方々の協力で毎週500食程度）
 - ④ 教育委員会、学校、SSW,民生委員、大学、農協・フードバンク・子ども食堂、企業（食材・会場提供など）社会福祉協議会などとの連携
 - ⑤ 支援対象は生活保護世帯、ひとり親世帯、就学援助世帯など

学習・生活支援事業の必然性

(1) 子どもの7人に1人が貧困状態で生活、貧困の連鎖が大きな社会的問題

2013年子どもの貧困対策法制定

(2) 貧困状態で暮らす子どもが抱える困難、不利益、不平等

① 極端な低学力4割 ② 不登校24% ③いじめ被害 ④ 高校進学率（特に全日制進学率68%/93%平均）
⑤ 学びに向かう力 ⑥ 大人からの支え ⑦ 孤立 ⑧ ヤングケアラー23% ⑨朝食を食べない3割

(3) 「貧困」は親と子供の自己責任とはいえない現実

① 経済的・精神的余裕がない世帯の生活の厳しさ

② 今支援しているのは、貧困の連鎖3世代目、4世代目

学校での授業・活動に参加できる条件

- ① 身だしなみが整っている
- ② 宿題、連絡帳の課題が準備できている
- ③ 朝ごはんを食べている
- ④ 「行ってらっしゃい」と言ってくれる保護者がいる

0歳から20歳まで 子どもの見守り強化事業

- ▶ 自治体からの委託事業（三郷市、鴻巣市、宮代町）
 - ▶ 地域のPTA、民生委員、児童委員、子ども食堂
- ▶ 要対協（虐待の疑いのある世帯）への見守り
 - ▶ 食材、日用品、おもちゃの配布
- ▶ 自分が育ってきた範囲でしか子育てを知らない
 - ▶ 頼れない、どう接すればいいかわからない、孤立
- ▶ 特に0歳から5歳までの未就学・未就園児
- ▶ 親たちの願い「わかってほしい」
 - ▶ 何度も足を運ぶこと、日常的な会話の中で
- ▶ 病院への同行、保育園の申請、予防接種の方法・同行、学習支援、読み聞かせ



地域からの支え

- ▶ 食生活改善推進委員による調理実習 4回
- ▶ アルファクラブ武蔵野さんから無料のバス提供、結婚式体験
 - ▶ 2021年度 6回
- ▶ 大宮アルディージャの方から「サッカーのお仕事」紹介
- ▶ J A お米500kg以上
- ▶ 株式会社ハーベス 社員食堂を学習教室に 食材費
- ▶ ひまわりクラブ 食事提供350回以上
- ▶ 新座子育てネットワーク、朝霞わ和輪の会、にこにこmama's、毛呂山ガーデン（子ども食堂）、北坂戸うまいうまい食堂、どんぐり子ども食堂
 - ▶ おにぎり、お弁当提供、場所の提供
- ▶ 志木市ごちゃまぜの会、パルシステム他 食材、日用品、絵本、ぬいぐるみの提供
- ▶ ウェルシア薬局 場所提供
- ▶ イエローサブマリン、100万人のクラックライブ
- ▶ 社協、元教員ネットワーク、90大学 ボランティア募集

子どもたちが学習教室に通う理由

(1) わからないことをわからないといってもいい場だから

① 質問する力は「生きる力」につながる

(2) となりに教えてくれる大人や大学生がいるから

① 信頼できる、自分を大切にしてくれる大人の発見は子どもたちの希望

② 大切にしてくれる実感は自分を大切にする思いに変容する

(3) 勉強ができなくても馬鹿にされない、比較されないから

① 一人の人間として認めてくれる。敬意は敬意として返ってくる

(4) 問題の意味がわかったり、解けたりする「快感」

① うれしいし、少し自分が変わったと実感できる、住む世界が広がる、見通しがよくなる一学びに向かう力

(5) 仲間がいるから

(6) 無料だから

学習支援・生活支援で「変化・成長する」子どもたち

- 1 自分を大切にしてくれることの実感ー明日へのささやかな希望
- 2 わからないことがわかる→世界が広がる「気持ちよさ」→学ぶ意欲
頑張れる自分の発見→自分への誇り
- 3 主観的な幸福感ー自分が一人の人間として認められ、公平に接してもらえたこと、社会や身近な大人たちへの信頼感が生まれたこと
- 4 子どもの成長・発達には「固有」の時間がある
 - 今は変化がみえない子でも「地下水脈」に、必ずどこかで現れる
 - 具体的「成果」をすぐ求めない、信頼して待つてあげる大人の存在

子どもの幸福度

- ▶ 大人たちからの温もり
- ▶ 学ぶことで広がる世界
- ▶ 仲間たちとの支えあい、自分の役割の自覚
- ▶ モデルとなる真似したい年上、大人の存在